

# Take it easy

## (肩の力を抜きましょう)

「特別の教科 道徳」が始まります  
「よし、がんばろう」  
「少し不安だ」  
「どうしよう」  
思いは様々かと思えます

でも、子どもたちに接する姿勢は  
‘Take it easy’ です  
肩の力を抜いて  
心にゆとりをもって  
子どもたちと、授業を楽しみましょう

道徳教育は一人一人の幸せを追い求めるものです  
楽しいと思える場  
笑顔が自然とこぼれる場  
一緒に過ごせてよかったと思える場  
それが大切です。

夢を大いに語り合おう  
一人一人のよさを引き出し伸ばしてあげよう  
このような思いをもつことは、大切です  
でも、肩に力が入りすぎると  
子どもたちは、その場がしんどくなります。

不安が募り、自信がもてない  
いろんなことがあり、イライラする  
あって当然です  
でも、不安感やイライラ感が表に出てしまうと  
子どもたちは、その場が落ち着かなくなります

道徳教育は、心と心の対話がベースです  
教師も子どもたちも、肩の力を抜いて  
自分を語り合えるようにするのです  
‘Take it easy’  
子どもたちと一緒に道徳の授業を楽しみましょう

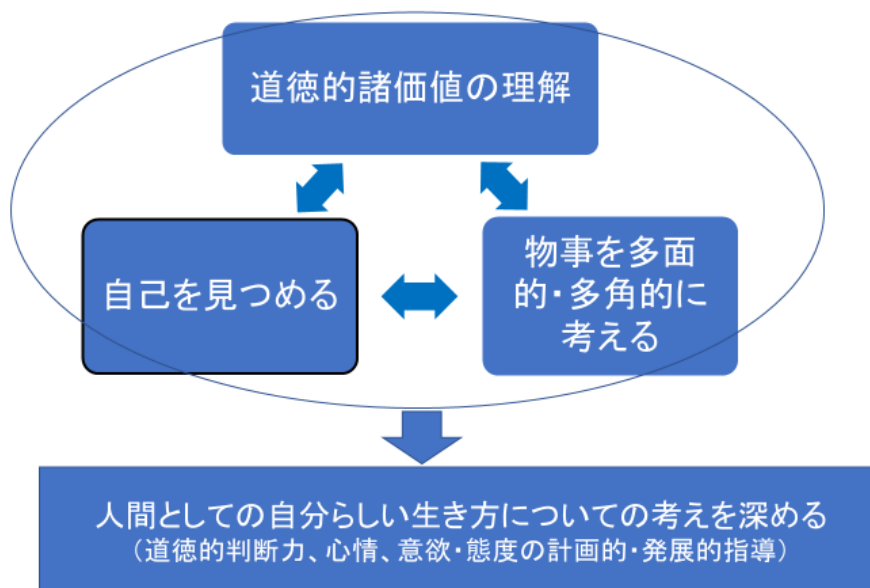
# 「特別の教科 道徳」の多様な学習指導過程の工夫

## ー3つのキー・ワードを多様に組み立てましょうー

多様な指導過程については、いろんな提案がなされています。それらは、全部意味があります。大いに学んでほしいのですが、ここでは、基本的な押さえをしてみたいと思います。「特別の教科 道徳」の目標にある3つのキー・ワード（道徳的価値の理解、自己をみつめる、物事を多面的多角的に考える）をうまく絡めながら、多様に授業を組み立てるのです。

### 1 「特別の教科 道徳」の目標の確認

道徳教育の要である「特別の教科 道徳」の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」（（ ）は中学校）となっています。それを図示すると次のようになります。



### 2 三つのキー・ワードを多様に組み立てる

「特別の教科 道徳」の目標には、授業の展開にかかわる3つのキー・ワードが記されています。道徳的価値の理解、自己をみつめる、物事を多面的多角的に考える、の三つです。基本的には、これらの三つのキー・ワードをうまく絡めながら、多様に授業を組み立てることになります。

例えば

- ① 自己を見つめる1→道徳的価値の理解1→物事を多面的・多角的に考える1→道徳的価値の理解2→自己を見つめる2→物事を多面的多角的に考える2・・・
- ② 道徳的価値の理解1→物事を多面的・多角的に考える1→道徳的価値の理解2→自己を見つめる→物事を多面的・多角的に考える2・・・

- ③ 物事を多面的・多角的に考える1→道徳的価値の理解1→物事を多面的・多角的に考える2→道徳的価値の理解2→自己を見つめる・・・  
等々。

それぞれの2はより深めることを意味します。なお「自己を見つめる」も「自分たちを見つめる→自分を見つめる」といった方法も考えていく必要があります。また、これらの三つの組み合わせを事前や事後も含めて、また2時間続けての授業、他の教科等と連携した授業などにおいても考えていくことが求められます。

例えば、①で説明しますと、「親切にされて嬉しいと思いませんか」と問いかけます。すると自分の今までを振り返ります。自己を「見つめる」の1になります。いろいろ出してもらいながら、「そうね、じゃ思いやりってどう考えればいいのか、親切にするということはどういうことなのか」と、問いかけ課題意識をもたせようとします。それは、「道徳価値の理解」の最初の段階1です。

では、そのことについて、「今日は、この教材から考えてみましょう」という形で、教材に描かれている道徳的事象・状況について、多様に考えられるようにします。それが「物事を多面的・多角的に考える」の1となります。

そこで出てきた意見を整理することによって「道徳的価値の理解」を深めていきます。それが「道徳的価値の理解」の2となります。子どもたちの意見はどれも価値があるととらえ整理していく。整理することによって、ねらいにかかわる道徳的価値に関して、理解を深めていきます。

そこから自分自身を見つめてみる。今日の学習でこういうことが大切だと発見した、改めて確認した、ということも「自己を見つめる」こととなります（「自己を見つめる」の2）。

そこで終わるのではありません。さらに、自己課題を見出して、事後に追い求めようとする意欲を培っていくこととなります。それは、日常生活における様々な道徳的事象や状況において「物事を多面的・多角的に考える」の2ということとなります。

つまり、授業を離れて日常生活でのいろんな場面において、自分の対応の仕方をしっかり考えるように発展させていくのです。

さらに②で説明しますと、まず、「思いやりってなんだろう」と問いかけてみます。「道徳的価値の理解」に1です。そこから、教材を提示し、「思いやりについて深く考えてみよう」となります。これが「物事を多面的・多角的に考える」の1ということとなります。

そこから意見を整理し「道徳的価値の理解」を深めます（「道徳的価値の理解」の2）。そして「自分を見つめます」（「自己を見つめる」の2）。さらに、自己課題を見出し事後へとつなげていきます（「物事を多面的・多角的に考える」の2）。

要するに、三つのキー・ワードをどういう状況で考え結びつけていくかを基本に考えることで、道徳の授業が深まっていきます。

この三つのキー・ワードを道徳の授業だけで考えるのではなくて、事前、事後とか、各教科や特別活動とか、総合的な学習の時間もひっくるめて、サイクル的に考えることが求められます。そのことによって、道徳の授業がパターン化することを防ぐと同時に、道徳の授業の効果を、全教育活動や日常生活の中に、より反映されていけるようになります。

道徳教育には「心にゆとり」をもつことが大切です。そして、道徳教育の要である「特別の教科道徳」の授業においては、心と心の対話がベースになります。道徳的価値のとらえ方において、自己を見つめることにおいて、道徳的な事象や状況を多様に考えることにおいて、心を通わし、先生と子どもたちの、子どもたち同士の、さらに保護者等も交えて、心と心の対話を広げ深めていくのです。

先生も子どもたちも、肩の力を抜いて、自分を語り合えるようにしましょう。そして、子どもたちと一緒に道徳の授業を楽しみましょう。